

大谷學報

第十卷第四號

中
世
の
研
究

大谷學會編

大谷學報

第十卷第四號特輯
中世の研究

大谷學報

第十卷第四號特輯
(中世の研究)

目次

心敬僧都の藝術境……………能勢朝次(一)

怨親平等の思想……………橋川正(四〇)

鎮西島津庄、その成立増大・住人・並に傳領……………徳重淺吉(五)

元の征東行省に就きて……………鴛淵一(二五)

カール大帝時代の文化とその特徴……………菅原憲(二六)

原始眞宗に於ける荒木門徒の研究…………… 日下無倫 (二七)

末法思想を動因とせる鎌倉時代の展開…………… 藤島達朗 (二〇)

東坡居士のことども…………… 本田成之 (三五)

* * * * *

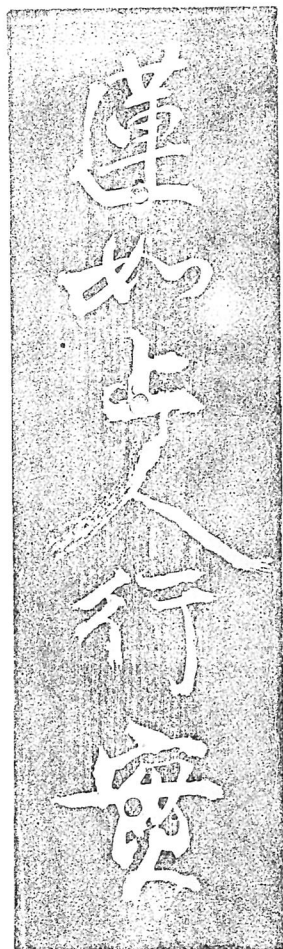
唐蕃會盟碑の拓本所藏について…………… 寺本婉雅 (三四)

大谷學會彙報・研究室彙報…………… (三五)

新刊 紹介…………… (三八)

大谷學報第十卷總目錄……………

大谷大學學長 稻葉昌丸 著



菊版洋裝 天金
四百三十五頁
定價 金四圓
送料 廿七錢

▲本書は尤も完全なる蓮如上人御一代の言行實録である。

▲附録の「御一代聞書類の研究」及び「索引」は著者が多年苦心の結晶にしてその精確詳密の點に於ては蓋し古今稀に見るものである。

▲今や宗團多難の秋、本書の持つ意義は更に重大と云はねばならぬ。

本書内容要目

- 一、空善記(附御兄弟中申定條々)
- 二、蓮淳記
- 三、實悟舊記
- 四、實悟記(御條々聞書及御一期記拔萃)
- 五、本願寺作法之次第(附、山科御坊事並其時之事)
- 六、昔物語記
- 七、榮玄記
- 八、系圖(日野一流系圖、大谷一流系圖、下間家系圖)
- 九、附録蓮如上人御一代聞書類の研究
- 十、索引

大谷學會々々

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛敎學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學敎職員、學生、及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス。

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。

一、年四回雜誌『大學學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名

二、理事 二名

三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス。

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學々部長並ニ大谷學主事ヲ以テ任ズ。

第八條 會員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會ニ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則 一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會職員

會長 稻葉 昌丸

理事 稻葉 圓成 藤岡 了淳

庶務委員 安藤 州一 大河内了悟 籾 舍雄

編纂委員 山邊 習學 北原 繁麿

上杉 懋岳 梶浦 眞了 能勢 朝次

橋川 正 福井 元澄 岸 章二

中島 智圓 北畠 顯夫

會計委員 加藤 智學 大須賀秀道 岡山 操

大谷學報			
四年發行		(一月一・四月) (七月一・十月)	
金額	參	圓	會費
隨	宜	申	シ
受	ク	受	ク
金額	拾	五	圓
頁	一	頁	廣告料
圓	拾	圓	半

不許複製轉載

昭和四年十二月十日印刷
昭和四年十二月十五日發行

大谷學報昭和四年度特輯

【中世の研究】

第十卷・第四號

編輯兼發行者 大谷學會

右代刊者

藤岡了淳

印刷者 藤澤淨圓

京都市壬午川邊五條下ル

印刷所 大谷學會庶務部

京都市烏丸邊守出川上ル

發行所

京都市烏丸頭大谷大學內

大谷學會

振替大阪四九九七番